

題目：和文原稿テンプレート (改行は適当な箇所)

7mm 程度

Title : Sample; How to write the paper for RIC Annual report.
(改行は適当な箇所)

8mm 程度

一般 財団¹・法人 北海道²・河川 財団³

Ippann ZAIDANN, Houzinn HOKKAIDOU and Kasenn ZAIDANN

7mm 程度

¹X 大学 X 研究科 教授

²A 地方整備局 A 河川事務所 課長

³B 株式会社 B 支社 B 事業部 B グループ

13mm 程度

要 旨

7mm 程度

■タイトルページのレイアウトとフォント

和文題目：ゴシック体，16 pt，センタリング，
下 7 mm 程度のスペース

英文題目：times，14 pt，センタリング，下 13 mm 程度のスペース

和文著者：明朝体，12 pt，センタリング

英文著者：times，12 pt，センタリング，下 7 mm 程度のスペース

所 属：明朝体，9 pt，頭合わせセンタリング，下 13 mm 程度のスペース．著
者と所属とは肩付き数字で対応付け．

要旨題目：明朝体，13 pt，センタリング，下 7 mm 程度のスペース

要旨文章：明朝体，10.5 pt，35 文字，15～20 行程度，英文は Times，10 pt，
下 7 mm 程度のスペース．

7mm 程度

《キーワード：〇〇；〇〇；〇〇；〇〇；〇〇》

■キーワード

明朝体 Times，10 pt，5 つ程度，2 行以内，《 》で囲む．英文'Key Words'はボール
ドイタリック体．

■留意点

他論文同様に体裁に十分留意する。

図表と本文の間に極端な空白部分をつくらない。

文と図表の構成等を工夫して十分読者に伝わるようにする。

■論文全体のレイアウトとフォント等

用紙は A4 判。全ページの余白は上左右 20 mm，下 25 mm。1 段組で 46 文字 42 行を標準。

句読点は全角の（，）（．）を使用，数字・アルファベットは半角を基本。

フォントは和文明朝，英文 times10.5 pt を基本。

1. 第 1 レベルの見出し

- ・ゴシック体。「1.」は半角数字。
- ・「2.」以降は、上を 1 行程度空ける。ただしページや段が替わる時は最上部に来るよう調整する。

(1) 第 2 レベルの見出し

- ・ゴシック体。「(1)」は両括弧付き半角数字。
- ・「(2)」以降は、上を 1 行空ける。

a) 第 3 レベルの見出し（項）

- ・明朝体。「a)」は右半片括弧付きアルファベット半角。
- ・b) 以降は、上を 1 行空けることを基本。
- ・第 3 レベルより下位の見出しは用いない。

2. 脚注および注

脚注や注はできるだけ避ける。本文中で説明するか、本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置く。

3. 数式および数学記号

式や数学記号は次式(1)のように本文と独立している場合及び文章の中に出てくる場合でも(例えば「 c_p は空気の定圧比熱 ($1.05 \times 10^3 \text{J kg}^{-1} \text{K}^{-1}$)」) 同じフォント (times イタリック体) を用いる。単位はイタリックとしない。数式は中揃え，式番号は括弧書きで右詰め。

$$Q_M = Q_R + Q_A + IE \quad (1)$$

4. 図表

図表は分かりやすい内容とし、最低幅は A4 幅の半分程度とする。

図表中の文字や数式はゴシック 9pt 以上を基本とするが、明朝でも可（いずれかに統一する）。

図表は原則としてそれらを引用する文章と同じページに置き、原稿末尾にまとめない。

図表と文章本体との間には 1 行程度を空けて区別を明確にする。

図表名はゴシック 10.5pt. 本文中で図表を引用する場合は図表名同様に、**表 1**、**図 1** のようにゴシック体（10.5pt）. 図表名（英文）は、**Table 1** や **Fig. 2** のように太字 Times New Roman.

表 1 表のキャプションは表の上に置く

番号	水位(m)	流量 (m ³ /s)
A	5.5	15.0
B	4.8	20.0
C	4.5	35.0

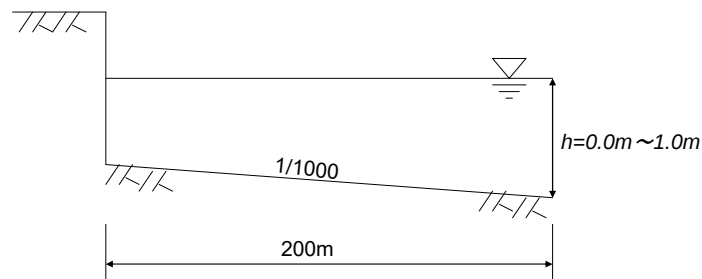


図 1 図のキャプションは図の下に置く
(ゴシック体 10.5pt)

5. 謝辞・付録

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に、見出し改行してから文章を書く。

付録：「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置く。

6. 参考文献の引用とリスト

参考文献：出現順に番号を振り、文章中の引用箇所では^{1),2)}上付き右括弧付き数字とする。参考文献は原稿の末尾にまとめて示し、脚注にはしない。

7. その他

最終成果品：原稿データ（Microsoft Word）及び原稿データ pdf（Tex の場合 350dpi 程度）を保存した電子媒体（CD 等）。

参考文献

- 1) 馬場仁志・星 清・橋本識秀：損失機構を組み合わせた貯留関数モデルの総合化，水工学論文集，第43 巻, pp.1085-1090, 1999. (邦文論文)
- 2) Robinson, S. K.: Coherent motions in the turbulent boundary layer, *Ann. Rev. Fluid Mech.*, Vol.23, pp.601-639, 1991. (英文論文：論文題名の最初の単語は大文字で始まる。雑誌名は斜体)
- 3) Tennekes, H. and Lumley, J.L.: A first course in turbulence, The MIT Press, 1972. (英文書籍：題は斜体)
- 4) 土木学会編：土木工学における数値解析，流体解析編，サイエンス社，1974. (邦文書籍)